

## 学級集団づくりへの取組（2年次）

～「学級集団づくり魅力ガイドブック」の作成～

島根県教育センター

教育相談スタッフ相談セクション 共同研究

## 目 次

I	研究の目的	1
II	研究の経緯	
1	ガイドブックにすること ～学級集団づくりの魅力を再考し、みんなで作っていく	1
2	研究の流れ	2
III	研究の基本的な考え方～ガイドブックの作成にあたって～	
1	学級集団づくりのマイナス面も知る	3
2	島根県の現状を考慮する	3
3	実践に学ぶ	3
4	キーワードをもとにして	3
5	ガイドブックの活用の仕方を提案する	3
IV	ガイドブックの実際	
1	ガイドブックの使い方の提案 ～「改めて考える・知る」「読む」「語り合う・向き合う」～	3
2	ガイドブックを使って研修する	4
3	ポイントの紹介	9
V	今後の課題について	
1	ガイドブックの活用について	23
2	活用することによって、改善をしていく	23
VI	おわりに	23

### 【引用文献】

---

### 【研究の概要】

学級集団のもつ力、集団のもつ魅力、学級集団づくりの「やりがい」の部分を今一度とらえ直し、学級集団をつくるためのポイントを再考し、提案する。

今年度は、「学級集団づくり魅力ガイドブック」を作成した。学級集団づくりのポイントを様々な視点で提案している。また、ガイドブックを使った校内研修の進め方、それに使うワークシート、学級担任のためのワークシートも作成した。

【キーワード】 学級集団づくり 「ガイドブック」 集団づくりのポイント 校内研修

---

# 学級集団づくりへの取組（2年次）

## ～「学級集団づくり魅力ガイドブック」の作成～

島根県教育センター教育相談スタッフ  
相談セクション共同研究

### I 研究の目的

今、改めて学級集団づくりの重要性を考えるときにきている。学力向上、いじめや不登校の未然防止、コミュニケーション能力の育成等が課題となっており、その解決を図る場や、子どもたちに「生きる力」を身につけさせていく基盤となる場が学級集団だからである。

そこで、学級集団づくりを進める上での柱となることや大切にしたいこと、学級集団づくりの魅力等について、具体的かつ多様な指針とその研修方法を提案する。

### II 研究の経緯

1 ガイドブックにすること～学級集団づくりの魅力を再考し、みんなでつくっていく  
まずは、「学級集団づくり魅力ガイドブック」と題したガイドブックを作成していこうと考えるに至った経緯を記しておきたい。

現在、「自分から人とかかわろうとしない」「自分たちでまとまろうとしない」等、子どもたち自身の集団をつくる力が落ちてきている。県としても施策としてアンケートQ-Uを実施し、学級集団づくりに力を入れているが、学級集団づくりには、「こうすればいい」「こうすればうまくいく」といったものは明らかにしにくく、それぞれの教職員の経験から生み出されるものによるところが大きいと考えられる。

ではなぜ学級集団づくりが必要なのか。

学級集団づくりについては様々な考えがある。そしてまたこうすればいいというマニュアルもない。子どもは集団の中で「学力が伸びる」「人とかかわる力がつく」等と言われる。しかしその一方で、「集団の中にいるから個の力が伸びない」という声も聞く。

ここで次の文章を紹介したい。

人間関係は人に何をもたらすのか、人間関係は自己の確立を援助するのである。

人は自分で悟って自身で自己概念をつくっていくのではない。いろいろな人とかかわり合い、「君ってこうだね」などとさまざまなフィードバックをもらいながら、自分のイメージが固まっていく。そして、はじめて自己が確立されるのである。人間が人間になるためには人間が必要なのである。

『育てるカウンセリング実践シリーズ2小学校編 グループ体験による（タイプ別）学級育成プログラム』河村茂雄編著（図書文化）

集団ができていく要素の一つに人間関係がある。現代社会の中では「人間関係づくり」「コミュニケーション能力」といった言葉をよく耳にするが、河村氏の考えによると、自己確立のために、人間が、集団が必要であると言える。前述したように、「集団の中にいるから個の力が伸びない」のではなく、「集団の中でこそ個が育つ」とも言えるのではないだろうか。そして、子どもたちがもっとも人とかかわる場所、それが学級なのである。

しかし昨今、個別の支援が必要な子どもへの対応が難しい、教師自身が子どもとのかかわりに困難さを感じる、保護者との関係づくりがうまくいかない等の理由から、「担任をしたくない」といった声を耳にする。そして、現場の教師たちに学級の現状を問えば、学級集団づくりの大変さ、

問題点が挙がることも少なくない。また、市販されている学級づくりの文献はその問題、課題に対応し、解決に導いていくものが多い。前述したように、確かに以前より子どもたちのかかわる力は落ちており、学級集団をつくるのが容易でなくなっている。

しかし、学級集団づくりはそもそも我々教師にとって、「やりがい」のあるものだったはずである。授業中、様々な意見や考えが飛び出し、大いに授業が盛り上がりそして深まったこと。音楽会で心が一つになった子どもたちの歌声を聞き、こみ上げるものがあったこと。体育祭の時、いろいろなトラブルを乗り越えて、チームが一つになって踊り、精一杯声を張り上げる子どもたちの応援を見て胸が熱くなったこと。普段の何気ない出来事で、教室でみんなで大笑いしたこと。「3年5組最高！」と卒業の寄せ書きに書く子どもたち。学級で問題が起きたとき、直接かかわっていない子どもたちも、真剣に考えて意見を言い、クラスの問題として向かってくれたこと。

決して一人では為し得ないことが、みんなの力、集団の力でならできる。そんな子どもたちの成長を目指して、我々教師はこれまで学級集団をつくることに切磋琢磨してきたはずである。そして、その学級を“卒業”した子どもたちが、新たな学校、学級、社会で、その学級で身につけた人とかかわる力を生かして、人と共に生きていく姿を目にし、教師としての喜びを感じたはずである。

そこで、学級集団のもつ力、集団のもつ魅力、学級集団づくりの「やりがい」の部分を今一度とらえ直し、学級集団をつくるためのポイントを再考する。学校の教職員みんなで学級集団をつくっていき、教師が「やっぱり学級づくりっておもしろい」「担任がしたい」と思える。そして、誰もが自分の経験による実践だけではなく、学ぶことの契機にする。そのための一助として活用してもらいたいという考えからガイドブックを作成することとした。

## 2 研究の流れ

<p>1年次（昨年度）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究の目的・方向性の確認</li> <li>○文献研究</li> <li>○島根県の児童生徒数・学級数についての分析</li> <li>○実践の聞き取り者の決定</li> <li>○実践の聞き取りの実施</li> <li>○まとめと今後の見通し</li> </ul>
<p>2年次（今年度）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究の目的・方向性の確認</li> <li>○聞き取りの実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校現場の教員への聞き取り</li> <li>・教育センター指導主事への聞き取り</li> </ul> </li> <li>○ガイドブックの作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度作成の試行原稿に対しての意見を受け、まとめ方の検討</li> <li>・各テーマごとの原稿の作成</li> <li>・ガイドブック試行作を作り、センター他スタッフ等より意見を受け、修正</li> <li>・ガイドブックの使い方（研修方法の提案）の作成</li> <li>・ガイドブックの完成</li> </ul> </li> </ul>

### Ⅲ 研究の基本的な考え方～ガイドブック作成にあたって～

ここではガイドブック作成にあたっての基本的な考え方を述べておく。

#### 1 学級集団づくりのマイナス面も知る

学級集団づくりの魅力や必要性を知るとはもちろんだが、「学級集団であるがゆえのマイナス面」も文献等から示した。そのマイナス面も踏まえた上で取り組んで行くことが大切であると考ええる。

#### 2 島根県の現状を考慮する

島根県の小・中学校、高等学校における学級の状況を調べることで、「クラス替えがある・ない」の学校の割合、複式学級の割合等が見えてきた。その学級の状況での集団づくりについても考えていく。

#### 3 実践に学ぶ

文献等はもちろんであるが、学級集団づくりで大切にしたいこと、学級集団づくりのとらえ方等を島根県の教職員の実践を中心にまとめている。優れた実践を積み重ねている学校現場の教職員、教育センターの各校種の指導主事等から学級集団づくりについての聞き取りをした。また、平成21年度～平成24年度の間に作成した「生徒指導・学級経営上の課題への取組～県内の公立小・中・高等学校の実践に学ぶ～」(実践事例集)をもう一度読み解き、学級集団づくりのポイントとして再掲している。

#### 4 キーワードをもとにして

どの章、項ともキーワードを強調している。このキーワードは、学級集団づくりのポイントでもあり、留意点でもある。自分が気になったキーワードのところからでも、また、キーワードのところだけでも読んでほしいと願っている。一つのキーワードが自分の学級集団づくりのヒントになったり、振り返りになったり、また問いかけの材料になったりすることもある。たくさんのキーワードの中から自分の実践の手がかりとなるキーワードを選んで欲しいと考えた。

#### 5 ガイドブックの活用の仕方を提案する

「読み物」として活用することもできるが、このガイドブックを研修に役立てて欲しいという願いがある。それが「教職員みんなで学級集団をつくっていく」ことであるという思いから研究を進めてきた。そこで、このガイドブックで校内研修をしてもらえるように、ワークシートや研修の方法等をガイドブックに盛り込み、活用の仕方を提案していく。

教職員の大量退職の時代はもうすぐである。これをもとに議論を行い、学校で同僚性、協働性が発揮されればと願っている。

### Ⅳ ガイドブックの実際

先に述べた研究の目的やガイドブック作成にあたっての基本的な考え方に従って、事例集にはいくつかの工夫を凝らした。

#### 1 ガイドブックの使い方の提案～「改めて考える・知る」「読む」「語り合う・向き合う」～

第Ⅰ章は「改めて考える・知る」、第Ⅱ章は「読む」、第Ⅲ章は「語り合う・向き合う」という構成にした。「改めて考える・知る」のところは「学級集団をつくる意味～学級集団づくりって大切!?～」とし、学級集団のもつ力、魅力、マイナス面等にふれるとともに、島根県の学級集団の状況についても述べている。「読む」のところは「学級集団づくりのポイント」とし、「どの学年にも共通すること」「各学年のポイント～発達の特徴を生かして」「様々な学級のポイント」「様々な方法や心にとめておきたいこと」という構成になっている。どれも読み物になっており、キー

ワードを中心に述べている。できればはじめから順番に読んで欲しいが、時間のないときには自分の気にかかったキーワードや、担任している学年のところなど、拾い読みもできる。自分にかかわるところだけでも読める。また、第Ⅱ章と第Ⅲ章は一つの内容を1ページまたは2ページにまとめている。必要なページをファイルから外して印刷等して使って欲しい。

「語り合う・向き合う」のところは「改めて考える・知る」「読む」を使って研修ができるようにした。ガイドブックを作成した目的の一つに、「担任一人ではなく、みんなで学級集団をつくっていく」がある。ガイドブックを読み物として終わらせるのではなく、読んで気づいたこと、感じたこと、考えたことをもとに、全職員で、学年部で、語り合うことをしてほしい。また、個人で学級集団づくりの構想をねったり、振り返りをしたりする向き合うためのワークシートも用意した。具体的な方法は次に示す。

## 2 ガイドブックを使って研修をする

ガイドブックを使った研修の仕方に決まりはない。どのような形態をとってもよいが、〈図1〉に校内研修の進め方の例を示した。題材、ねらいを見て、自分たちの課題にあったものを選択するようになっている。また、研修をするメンバーの例、実施時期の例も示してある。

〈図2〉には研修の実施方法例を示した。研修の進め方や、どのポイントを使って、どのワークシートを使うとよいかが示してある。〈図3〉はそのワークシートの一部である。

また、「学級担任の学級づくりを助ける～学級担任のためのワークシート～」も作成した。〈図4〉学級担任が学級集団づくりのプランを立てたり、年度途中で自分の実践を振り返ったりできるワークシートである。もちろん、このワークシートを使って、学年部で話し合いをもつこともできる。

〈図1〉

III-1 校内で学級集団づくりの力を高める(1)

### 校内研修の進め方

教科などの校内研修を実施する機会があっても、学級集団づくりに関する校内研修はあまり行われていないのではないだろうか。第Ⅰ章で見てきたように、学級集団は学校の教職員みんなで作っていくものなので、教職員みんなが、共通の認識をもって、どの学級の集団づくりにも参画していく必要があります。

校内研修は、その必要性を認識し、学級集団づくりの意識を共有する絶好の場です。それはまた、お互いが教職員としての力量を高め合う場にもなります。研究主任や生徒指導主任がリーダーとなって、校内で学級集団づくりの研修をしてみませんか。

**【題材等一覧】**

題材	ねらい	メンバーの例	実施時期の例
① 学級集団づくりは何をめざすのか	学級集団づくりがめざすものを問い直し、自らの考えを深める	全校の教職員	学年初めの時期 長期休業中など時間に余裕のある時期に
② a ② b 学級のルールについて考える	大切にしたいルールは何なのか、どう定着させるかアイデアを出し合う	学年部 全校の教職員	1学期の早い時期に
③ 学級集団づくりの願いやプランを共有する	学級担任の願いやプランを知り、共通認識をもって学級集団づくりを行う	学年部 全校の教職員	1学期の早い時期に
④ 一人の“だから”をみんなの“だから”に	学級集団づくりの「技」や「配慮」を共有し、力量を高める	全校の教職員	長期休業中など時間に余裕のある時期に
⑤ [ ]年[ ]組のよさや成長を見つける	学級担任一人では気づけない学級のよさや成長を様々な視点で見つける	学年部 全校の教職員	学期の途中に
⑥ 各学年の子どもたちの発達の特徴を理解する	子どもたちの発達の特徴を理解することで、学級集団づくりの具体策につなげる	学年部 全校の教職員	1学期中に
⑦ 教職員のみなさんに感謝していること	学級集団づくりの基盤となる教職員の協働性・同僚性を高める	全校の教職員	職員会の最後に 長期休業中など時間に余裕のある時期に
⑧ 私はわたし…語る「わたし」披露します	学級集団づくりの基盤となる教職員の協働性・同僚性を高める	全校の教職員	長期休業中など時間に余裕のある時期に

※ 2「学級担任のためのワークシート」も、複数の教職員での研修に使えます。

高根京教育センター「学級集団づくり魅力ガイドブック」

【実施方法】

題 材	実 施 方 法 例
① 学級集団づくりは 何をめざすのか	1 ワークシート①または付箋に、個人の考えを書きます。 2 グループで考えを出し合い、グルーピングをします。 3 本ガイドブック第Ⅰ章を読みます。 4 もう一度話し合い、最後にワークシートに考えをまとめます。
② 学級のルールについて 考える	1 ワークシート②aまたは付箋を使って、個人の考えを書きます。 2 グループで考えを出し合い、優先順位をつけます。 付箋を使った時は、②bのシートを使います。
③ 学級集団づくりの 願いやプランを共有する	1 ワークシート③を使ったり、掲示物やパワーポイントを使ったりして、学級担任が自分の学級の集団づくりの願いやプラン、教科担当にお願いしたいこと等を話します。 2 教科担当や関係の教職員は1を聞きます。 3 お互いに質問したり意見を出したりして打ち合わせをします。
④ 一人の“だから”を みんなの“だから”に	1 ワークシート④または付箋に、自分の考えを書きます。 2 グループになって1を出し合い、聴き合います。 3 参考になったこと、気づいたことをワークシートに書きます。
⑤ [ ]年 [ ]組の よさや成長を見つける	1 ワークシート⑤または付箋に、自分の考えを書きます。 2 グループになって1を出し合います。 3 学級担任が、2を受けてコメントします。
⑥ 各学年の子どもたちの 発達の特徴を理解する	1 本ガイドブックのⅡ章「各学年のポイント」の該当学年のページを読みます。 2 それを参考にしながら、学級の子どもの実態と合わせ、ワークシート⑥に学級集団づくりの具体策をまとめます。
⑦ 教職員のみなさんに 感謝していること	1 ワークシート⑦を使います。相手の方と自分の名前は書かずに、日頃感謝していることを書いてリーダーに提出します。 2 リーダーは、そのシートをみなさんの前で読み上げます。
⑧ 私はわたし… 語れる「わたし」披露します	1 体を動かすウォーミングアップをして雰囲気や和らげます。 2 ワークシート⑧を使います。自分の名前を書いて、リーダーに提出します。 3 リーダーは、そのシートをみなさんの前で読み上げて、誰なのかあててもらいます。そのシートを書いた人に短くコメントしてもらいます。

※ それぞれの内容のポイントが書かれた第Ⅱ章を印刷して、手がかりにすることもできます。

学級担任のための ワークシートを使って	学年部や教科担当、副担任などと一緒に、同じシートを人数分用意してそれぞれが書き込んだ後、話し合います。
------------------------	---

〈図3〉校内研修用ワークシート

Ⅲ-1 校内で学級集団づくりの力を高める(2)⑤

[       ] 年 [       ] 組のよさや成長を見つける

1 [       ] 年 [       ] 組のよさや成長を教職員で見つけます。学級の子ども個人のことでも、学級全体のことでもかまいません。

2 お互いに出し合います。担任は最後に話します。

3 気づきや感想を書きます。

学年部ごとあるいは全校の教職員で、このシートを学級数用意して実施します。一定期間、各学級のよさや成長を見つける期間を設けてから実施してもよいでしょう。子どもたちを見る目を養う研修にもなると思います。

Ⅲ－2 学級担任のためのワークシート①

# 学級集団づくりのプランをたてる

学校経営目標・学年経営目標 等

現在の姿〈良い点・課題となる点〉

担任の願い

子どもの願い

学級の願い・目標

取り組みたいこと～どのような姿が現れることをよしとするか

## 教室環境をチェックしよう！

◇ 黒板（粉受け、黒板消し）



きれいですか・・・・・・・・・・・・・・（ ）

落書きはありませんか・・・・・・・・・・・・・・（ ）

memo



◇ 机

整頓されていますか・・・・・・・・・・・・・・（ ）

落書きはありませんか・・・・・・・・・・・・・・（ ）

◇ ロッカー

整頓されていますか・・・・・・・・・・・・・・（ ）

落書きはありませんか・・・・・・・・・・・・・・（ ）

◇ 掲示物

外れそうになっていませんか・・・・・・・・・・・・・・（ ）

落書きはありませんか・・・・・・・・・・・・・・（ ）

傷ついていませんか・・・・・・・・・・・・・・（ ）

◇ 植物や生き物

世話がされていますか・・・・・・・・・・・・・・（ ）

周りが散らかっていませんか・・・・・・・・・・・・・・（ ）

◇ 学級文庫の本

整頓されていますか・・・・・・・・・・・・・・（ ）

汚れや破損はありませんか・・・・・・・・・・・・・・（ ）

◇ ごみ箱

気になるものは入っていませんか・・・・・・・・・・・・・・（ ）

◇ そうじ道具

整頓されていますか・・・・・・・・・・・・・・（ ）

壊れているものはありますか・・・・・・・・・・・・・・（ ）

子どもたちは、いろいろなところにサインを出しています。朝や放課後など、普段から教室の環境に気を配り、おかしいなと感じたら、個や集団の様子を見つめ直してみましよう。

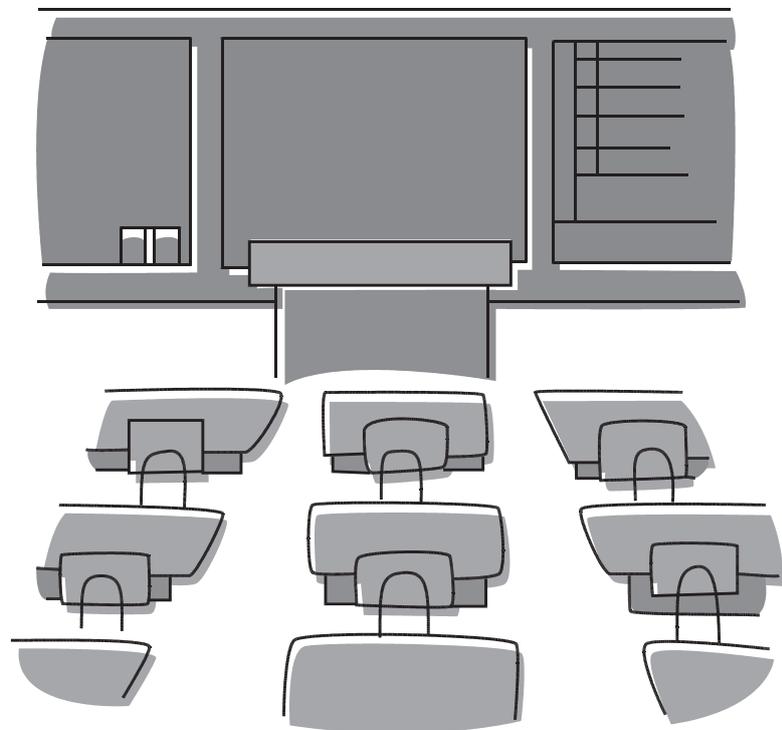
### 3 ポイントの紹介

〈図5〉はガイドブックのもくじである。学級集団づくりのポイントとして示したのは、まず「どの学年にも共通すること」である。例として「(1) マズローの欲求階層説を参考にする(資料1)」と「教職員みんなが参画する(資料2)」を挙げた。学級集団づくりに向かうとき、小学校、中学校、高等学校、どの段階においても、大事にしたいこと、基盤とも言うべきものを11項目挙げている。

2項には「各学年のポイント～発達の特徴を生かして」として、小学校1年生から高等学校1年生までの学年別のポイントを挙げている。(資料3・4・5)「この学年はこうすればいい」ということではなく、キーワードをもとにそれぞれの学年の特徴、発達段階をとらえ直し、自分のかかっている学級に引き寄せて読んでいただきたい。

3項には「様々な学級のポイント」として「複式学級の学級集団づくり」(資料6)「クラス替えない学級・少人数学級の学級集団づくり」「普通高校・専門高校の学級集団づくり」を示した。小学校において複式学級が多い、小、中ともクラス替えがない学校が多い状況がみられる、といった島根県の学級の現状を踏まえ、そのポイントについて述べている。

4項には「様々な方法や心にとめておきたいこと」として「教職員のかかわりの力を磨く」(資料7)「人とかかわる力や集団を育てる学習を実施する」(資料8)など8項目挙げている。学級集団づくりはそこに携わる教職員の思いや考えが様々である。1項の「どの学年にも共通すること」の他に、自分が学級集団づくりの柱にしていこうとするもの、大事にしていこうとする考え方があることだろう。そのいくつかの例を挙げている。



## も く じ

はじめに	-----	1
もくじ	-----	2

### 第Ⅰ章 改めて考える・知る

#### 「学級集団をつくる意味～学級集団づくりって大切!?～」

1 学級集団のもつ力	-----	5
2 学級集団のもつ魅力	-----	5
3 学校・学級という集団がおちいる可能性のあるマイナスの面	-----	6
4 現代の子どもたちの特徴を知る	-----	6
5 島根県の学級集団の状況を知る	-----	7

### 第Ⅱ章 読む「学級集団づくりのポイント」

1 どの学年にも共通すること		
(1) マズローの欲求階層説を参考にする	-----	9
(2) 実態を把握する、児童生徒理解に努める	-----	10
(3) 教師の願いと子どもの願いを合わせ、共有する	-----	11
(4) 学級集団づくりの中で一人一人の子どもにつけたい力を考える	-----	12
(5) 環境を整える	-----	13
(6) ルールをつくり、定着させる	-----	14
(7) 「個」とつながる、「個」と「個」をつなぐ	-----	15
(8) 毎日の授業で学級集団づくりをする	-----	16
(9) リーダーを育てる	-----	17
(10) 教職員みんなが参画する	-----	18
(11) 保護者の理解を図る	-----	19
2 各学年のポイント～発達の特徴を生かして		
(1) 小学校1年生の学級集団づくり ドキドキの1年生～学校生活の基盤づくり～	----	20
(2) 小学校2年生の学級集団づくり 慣れて安心2年生～「友だちっていいな」の体験を～	----	22
(3) 小学校3年生の学級集団づくり わんぱく盛り3年生～ギャングエイジを大切に～	--	24
(4) 小学校4年生の学級集団づくり 安定感のある4年生～仲間とともに育つ～	-----	26
(5) 小学校5年生の学級集団づくり ようこそ思春期5年生～揺れに付き合いながら～	--	28
(6) 小学校6年生の学級集団づくり 最高学年6年生～リーダーとしての役割と責任を～	----	30
(7) 中学校1年生の学級集団づくり 実は力を持っている中学1年生～その力を生かす～	----	32
(8) 中学校2年生の学級集団づくり 先輩と呼ばれる中学2年生～積み重ねの時期に～	-	34
(9) 中学校3年生の学級集団づくり 進路決定の中学3年生～中学を「やりきる」～	---	36
(10) 高等学校1年生の学級集団づくり 一斉スタートの高校1年生～社会につなぐ～	-	38

3	様々な学級のポイント	
(1)	複式学級の学級集団づくり	40
(2)	クラス替えのない学級・少人数学級の学級集団づくり	41
(3)	普通高校・専門高校の学級集団づくり	42
4	様々な方法や心にとめておきたいこと	
(1)	日常の働きかけを大切にする	43
(2)	教職員のかかわりの力を磨く	44
(3)	アンケートQ-Uを生かす	45
(4)	特別活動を生かす	46
(5)	人とかかわる力や集団を育てる学習を実施する	47
(6)	人とかかわる力や集団を育てる学習を実施する時の配慮	48
(7)	トラブルを成長のチャンスととらえる	49
(8)	支援の必要な子どもたちや休んでいる子どもたち、その周囲の子どもたちに	50

### 第三章 語り合う・向き合う「学級集団づくりの研修」

1	校内で学級集団づくりの力を高める	
(1)	校内研修の進め方	51
(2)	校内研修用ワークシート	
①	学級集団づくりは何をめざすのか	53
②a	学級のルール～何を大切にしますか・どうやって定着させますか～	54
②b	学級のルール〈付箋での研修用〉	55
③	学級集団づくりの願いやプランを共有する	56
④	一人の“だから”をみんなの“だから”に	57
⑤	[ ]年 [ ]組のよさや成長を見つける	58
⑥	各学年の子どもたちの発達の特徴を理解する	59
⑦	教職員のみなさんに感謝していること	60
⑧	私はわたし…語る「わたし」披露します	60
2	学級担任の学級集団づくりを助ける～学級担任のためのワークシート～	
①	学級集団づくりのプランをたてる	61
②	学級集団の状況を把握する	62
③	つけたい力を考える	63
④	気にかかっていることを整理する	64
⑤	子どもたちに語る自分のこと	65
⑥	教室環境をチェックする	66
⑦	どの子どものどんなところを生かす(伸ばす)か考える	67

#### 【参考文献】

(資料1)

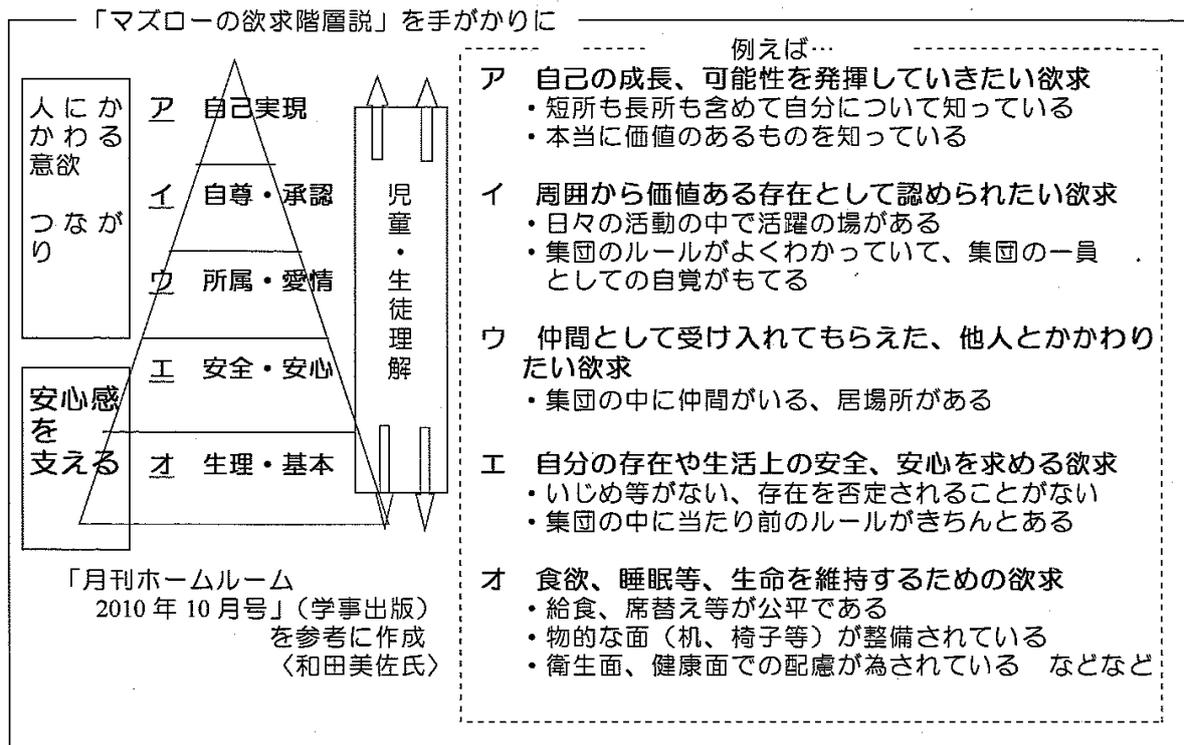
Ⅱ-1 どの学年にも共通すること(1)

## マズローの欲求階層説を参考にする

マズローは、「人間の欲求は層になっており、下位の層の欲求が満たされなければ上位の層の欲求は出てこない」という説を唱えました。

この考え方は、学級集団をつくっていくときにも参考になります。

次の図は、マズローの説をもとに、子どもたちにとって安心感や所属感のある学級をつくるための手がかりを示したものです。



子どもたちが成長していくことのできる学級集団を作っていくには、まず、一番下位の欲求である「生理的欲求・基本的欲求」を子どもたちに満たすことから始め、続いて下位から二番目の「安全欲求・安心欲求」を満たすことを考えます。

これら二つの欲求が満たされて安心感が支えられると、子どもたちに「所属欲求・愛情欲求」が生まれ、さらには「自尊の欲求・承認の欲求」へと進んでいきます。この段階では、子どもたち同士がかかわり合えるような取組を行ったり、一人一人が活躍できる場やお互いに認め合える場をつくったりすることが大切です。そうして、子どもたちが自己の成長を目指し可能性を発揮していこうとすること(「自己実現」)を促します。

今、子どもたちにとってどの欲求まで満たされているのかという視点を、学級集団づくりに役立てていきたいものです。

この第Ⅱ章の1では、まずどの学年でも基盤と考えられるものを提案しています。

## 教職員みんなが参画する

学級集団づくりの目的は、子ども一人一人の育ちを支えることで、教師が学級を管理しやすくするためではありません。大切なことは、子どもたちの成長を支えるために居心地の良い集団づくりをしていくということ、教師一人一人が意識していることです。この章でポイントとしてあげたことは、決して新しいことではなく、これまで当たり前実践されてきたことでしょう。それを集団づくりという視点から意識して行うということ、すなわち、教師が「その気」になって「本気」で取り組むということです。

そして、「その気」「本気」を支えるのは教職員のチームワークです。学級集団づくりは、学級担任だけで取り組むものではありません。担任とともに、教科担当や学年部をはじめとする教職員みんなが学級集団づくりに参画します。そのためには、子どもたちの良いモデルとなる教職員集団であることも大切です。うまくいかないことがあっても、職員室で弱音が吐け、悩みを聞いてもらえると、また立ち上がれることもあるでしょう。教職員一人一人が温かいまなざしで大事にされ、認め合える、支え合える集団でありたいものです。

さらに、個や集団の成長を1年間という枠だけではなく、それぞれの学校を卒業する頃、または社会へ出る頃を1つの目標として考え、協働性を発揮しながら連携して取り組むことも必要でしょう。

例えば



考える時間を持つ・・・新年度の始まりに、各学期の始まりに  
職員室で話題にする、学年部会や職員会で話し合う  
職員の間人関係をよりよくするための研修を行う  
校区の学校と情報交換をする

様々な方法P44  
校内研修用  
ワークシート  
P53~60

### <島根の教職員の声>

- ☆ 中学校での大きな集団を見据えて、新しい人ともかかわる力をつける必要があると思います。そこで、全教職員で、コミュニケーションの力や意思表示ができる力を育てようとしています。他の小学校とも交流し、自分でかかわる場面を作り、それについて振り返りもしています。
- ☆ 大人がそれぞれの価値観でかかわると子どもは揺れてしまいます。ベクトルを同じ方向に合わせておくことが大切です。また、子どもが少ないとよく見えるので、大人がでしゃばりすぎるときがあります。大人が出ていくところと子どもに任せるところを共通理解しておきます。
- ☆ 支援を必要とする子どもが何人もいるとそこにかかわることが増え、その間、他の子どもたちは待っていることとなります。担任一人では全体が見えにくくなってひずみが生じ、それまでがんばっていた子どもから不満が聞こえるようになります。複数の教職員でかかわることで担任も子どもたちも元気になります。
- ☆ 大規模校では、学級の中だけでは収束しません。部活動の関係、他のクラスとの関係が起きてきます。どう歩調を合わせて解決していくかが難しいです。同じものを大事にできる学年組織であること、そして、お願いできる関係をつくっておく必要があります。
- ☆ うまくいかないようなことがあっても、みなさんが聞いてくれる、出せる職員室。全部聞いてもらえる。そうするといろんな人がアドバイスしてくれます。

## 小学校1年生の学級集団づくり

### ドキドキの1年生～学校生活の基盤づくり～

#### 小学校1年生って・・・

小学校入学への期待と不安が大きく入り混じった1年生。新しい場所・新しい人・新しい生活への期待と不安、そんな思いをもって入学してくる子どもたちです。

この時期はまだ幼さが残り、自己中心的な面をもって、「自分を見て見て」と、注目を集めたい、認めてほしいという気持ちもいっぱいです。

しかし、エネルギーは大人以上で、おもしろいと感じればどどん力を発揮する頃です。「自分っていいぞ!」というイメージをもちやすい時期でもあります。

また、子ども同士の人間関係はまだ希薄で結びつきが弱く、担任との関係が中心です。担任への依存と尊敬の念がみられます。

#### ◎まずは安心感を支える環境を整える

自分の席はどこかな、担任の先生はどんな人かな、朝学校に着いたら何をすればいいのかな、トイレに行きたくなったらどうしよう・・・小学生になったという喜びとともに、初めての場所や人、生活に、不安な気持ちも抱えている子どもたちです。同じ幼稚園や保育所等から入学した子どもがいなくて、知らない人の中、心細い思いをしている子どももいるでしょう。これから始まる学校生活が楽しいと感じられるよう、まずは丁寧に安心・安全を確保し安心感を支えることから始めましょう。

例えば



物理的環境を整える(清潔、安全、落ち着いて過ごせる教室環境)

・・・机やいすの大きさ、座席やロッカーなどの場所

教室のごみ箱、黒板、掲示物、花瓶などの状態

人がわかる:担任の先生、友だち、学年・学校にいる人

生活の仕方がわかる:生活時程、トイレの使い方、給食、掃除、登下校

共通ポイントP13

学級担任のためのワークシートP65、66

#### ◎行動のよりどころとなる基本的なルールの定着を

ルールがあることで行動の基準ができ、それに守られながら子どもたちは安心して生活することができます。担任への依存と尊敬の念が強いこの時期は、担任が提示するルールは絶対です。担任がリーダーシップを取りながら、どの子どもも公平で安心して暮らせるルールやマナーを教えていきます。ルールが定着することは、様々な学びを保障することにつながります。

例えば



学習のルール:聞き方、話し方、学習道具の準備の仕方など

生活のルール:あいさつ、遊び方、提出物の出し方など

共通ポイントP14

校内研修用ワークシートP54、55

## ◎役割をもたせる

役割をもつことで、教職員や友だちの役に立って感謝されるという経験ができ、自分が学級においてかけがえのない存在であることを実感できます。また、子どもの社会性を育て、集団づくりの基礎となる“責任”などを学ぶ体験ができます。役割を遂行するためには、自分の気持ちや考えだけでなく、友だちなど他者の意見を聞いたり気持ちを想像したりし、他者の存在も意識するようになります。係活動など、まずは一人一役からスタートし、任された仕事をやり遂げた達成感が味わえるよう支えていきます。

例えば



当番活動、係活動

学級担任のためのワークシート  
P67

## ◎つながりをつくる

エネルギーがいっぱいで、何でもやってみようと思える1年生。そんな気持ちとパワーを発揮していくには、いつも温かく見守ってくれる人がいるという安心感が重要です。まずは、担任が一人一人の子どもとつながりをつくり、担任自身の人とかかわる力を発揮するときです。

そして、担任と子どものつながりを支えにしながら、子ども同士のかかわりをつくり、子どもと子どもをつないでいきます。教科のねらいとともにかかわりを育むという視点をもって授業をし、給食や遊びなどの日常のかかわりを大切にしていくことと合わせて、計画的に構成的グループエンカウンターなどの学習も取り入れ、かかわる力を育てていくことも必要です。こうして育まれた力を生かし、子どもたちは、自ら人とかかわっていかうとしましょう。次の新しい出会いでの自信につながります。

例えば



担任とつながる ; 授業、休み時間、給食時間に

日記・連絡帳を利用して

担任のかかわる力を磨く

子ども同士をつなぐ ; 遊びを通して、授業や行事の中で

構成的グループエンカウンターなど

共通ポイントP15  
様々な方法P47、48

### <島根の教職員の声>

- ☆ 低学年は、とても大事で、集団としてのマナーを教える良い時期と考えています。例えば「友だちが話しているときは静かに聞こう」などです。実際にそうして聞いてもらう心地よさも体験させることを大切にしています。あいさつも大事にし、丁寧に場を捉えて指導します。
- ☆ 当番活動を通して、責任（自分の仕事はちゃんとやる）と受容（相手を受け入れ、困っているときは助ける）を育てます。働くことで、人とかかわりや知識・技術を学ぶことができます。感謝をされ、心地よさも体験できるのではないのでしょうか。働くことは、子どもにとって得になることです。
- ☆ 友だちを大切にすることについては、まず隣の人を意識し大切にすることから始めます。大切にしたりされたりする心地よさを感じさせたいです。
- ☆ 言動が気にかかる子どもにばかり声をかけがちにならないよう、「当たり前に行っている子ども」を褒め、「ちゃんとあなたも見ているよ」というメッセージを伝えます。どの子どもにも公平に目をかけることを心がけています。

## 中学校1年生の学級集団づくり

### 実は力をもっている中学校1年生～その力を生かす～

#### 中学校1年生って・・・

3月下旬の小学校の卒業式から4月上旬の中学校の入学式までのわずか半月くらいで、大きな変化を経験するのが、中学1年生です。制服の着用、授業時間、教科担任制など、中学入学とともに生活の多くの面で変化が生じます。これまでの最上級生から最下級生に変わり、部活動が始まり、先輩や後輩の関係もはっきりしてきます。そして、定期試験があり、成績が目に見える形で示されるなど学習面も大きく変わります。このように、中学校1年生には、まさにそのなりたての1学期に、これまでに経験したことのない変化が、たてつけに起きるのです。

#### ◎中学校1年生は力をもっている!!

中学校1年生は、まだサイズの合っていない学生服を着て、目をきらきらさせながら入学してきます。そんな姿を見て、上級生や教職員に「かわいい!」と幼く見られたり、「1年生は何もわからないから教えてあげないと」とお世話してもらうことが多くなったりすることはどの中学校でもよくあるのではないのでしょうか。確かに中学校のことはわからないことがたくさんあると思いますが、1年生は少し前までは小学校6年生でした。児童会、委員会の役員や、集団登校の班長、体育会や音楽会など小学校を引っ張っていくリーダーとして活躍していました。それが中学校に入学したとたん、あまり仕事を任されなくなり、責任ある役割をもたなくなってしまう。それはとてももったいないことではないのでしょうか。中学校1年生は実は力を持っているのです。

そんな気持ちで1年生をとらえ、学級集団をつくっていくことが大切です。

共通することP17  
学級担任のための  
ワークシートP67

#### ◎その力を発揮させる場をつくる リーダーを育てる

1年生が持っている力を発揮させる場を作りましょう。なかなか生徒会活動の中で1年生が活躍できる場はないかもしれません。しかし、学級の中で、学年の中でならば、1年生が自分たちの考え、自分たちの力で動ける場が作れるはずで。主体的な活動を取り入れていけば、学級として、学年としてまとまっていくきっかけになり、リーダーも育てていくのではないのでしょうか。このスタートがやがて生徒会にもつながっていきます。

例えば



学級の係活動 学級イベント 学年集会の運営 学級対抗レク etc.

#### <島根の教職員の声>

学級づくりのために、一番最初は教師の方が学級イベントを企画し、行います。すると、そのうち子どもたちが「学級イベントまたやりたいです!」と言ってきます。「しめた!」と思って、「じゃあ企画書書いて、それがOKなら時間あげるよ」と伝えます。1年生の子どもたちがいきなり企画書は書けませんので、最初は書き方を教えてやり、いっしょに考えてやったりします。そうやって学級イベントをきっかけにして、自分たちで話し合い、自分たちで動こうとするパターンができていき、お互いに意見を出しやすい雰囲気になっていきます。

## ◎誰もががんばろうと思って入学してくる・・・チャンス！

学力調査のアンケート結果からも中学校1年生は学習意欲が高いことがわかっています。小学校時代に勉強があまり好きではなかった子どもも、「中学校ではがんばるぞ！」と思ってよい緊張感をもちながら入ってきます。その高い学習意欲をチャンスとしてとらえ、それを生かし、学級が学習へ向かう雰囲気をつくっていくことが大切だと思います。また、学習内容も小学校から大きく変わってきます。「中学校の勉強は難しい」ではなく、その教科を好きになるチャンスととらえて、そのための努力をする機会にしてみてもいいでしょうか。

共通すること P16

## ◎中学校のルールを伝える

子どもたちが新しい環境（学級等）に入ったときに、そこが安心・安全な場所であるかということは学級集団づくりの基盤になります。安心安全な場所にするためにはルールがあることが不可欠です。

例えば



時間を守る 学習規律 係の仕事 給食 掃除 提出物 etc.

また、学習規律などについては、子どもたちはそれぞれの小学校での経験をもってきています。例えば手の挙げ方や発表の仕方などです。そこで、教科担任制となった中学校において、各教科での学習規律の統一がないと、小学校で身につけた学習規律の習慣はあっという間になくなってしまいます。子どもによっては、「中学校ってあまり手を挙げなくてもいいんだ」「ノートも自由でいいんだ」などと勘違いをしてしまい、学習態度が一気に乱れるという状況も生まれています。

中学校のルールを教職員で確認し、身につけさせていくことが大切です。

共通することP14  
校内研修用ワークシート  
P54, 55

### 〈島根の教職員の声〉

中学生は、友達との関係がもろく、ちょっとしたトラブルで居心地が悪くなるので、せめて担任とつながっていることで乗り切れる。個々とのつながりを太くし、担任がいれば何とかできるという安心感を子どもたちに植え付けたい。

自分の価値観に揺れる時期で、それぞれの価値観でルールを逸脱しようとする。安心感が揺れないよう教員が絶対的ルール（掃除・給食・係りの仕事）を示すことが大事。自分たちで守るという意識が必要なので、具体的なルールの内在化を促す。

## ◎担任と副担任、教科担当との連携が大切！

子どもたちにとって、中学校は初めての完全教科担任制。それに戸惑う子どもも多いはず。でも、それを強みしていくことが大切です。「いろんな先生と出会える」「たくさんの先生に見てもらえる」ということを生かしていけば、子どもたちの思考や心の成長は大きく伸びていくと思います。ただし、それが生きるためには、その「いろいろな先生」たちの連携が重要になっていきます。担任が「Aくんは今こういう状況です」「うちのクラス昨日こういうことがありまして…」と伝えることや、教科担当が「Bくんちょっと心配なんだけど何かあった？」「3組はすごくいろいろな意見を出すよ。」といった情報交換が行われることが、学級集団をつくっていくことに大きく影響します。

共通すること P18

校内研修用ワークシート P56 58

## 高校1年生の学級集団づくり

### 一斉スタートの高校1年生～社会につなぐ～

#### 高校1年生って・・・

高校は、様々な中学校から生徒たちが集まってきます。子どもたちは中学校よりもぐっと世界が広がったように感じることでしょう。

新しい友だちや教師との出会い、社会的関心の広がり、進路の選択など新しい環境や課題に直面していく時期です。また、自我の形成や心身の発達により自主独立の要求が高まることから、生徒の自発的、自治的な活動をできる限り尊重し、生徒が自らの力で組織をつくり、活動計画を立て、協力し合って望ましい集団活動を行うように導くことが大切になります。

#### ◎高校は一斉スタート 世界が広がる

共通することP10

学級担任のためのワークシートP61

高校に入学すると、友だち関係が広がります。様々な中学校から来る子どもと出会い、新しい世界、新しい関係がスタートします。子どもたちはいろいろな思いで教室に座っていることでしょう。期待より不安の方が大きいのかもかもしれません。それを教師は理解し、中学校までの生徒一人一人の様子を把握した上で、高校での「新しいスタート」が子どもたちにとってプラスに作用するようにしていくことが大切になります。入学してから早い段階での面談も有効です。

#### ◎相互に認め合い、高め合う集団をつくる

高校では一段と学習内容が難しくなり、教科の専門性もぐっと上がります。その中で子どもたちは自分の成績と向き合わざるをえなくなります。自分の進路に向かって、社会に出るために、一人一人が成長していくためには、自分の生き方について模索し、自分が伸びようと努力する人になって欲しいと思います。そのためには、自他がそれぞれに個性を発揮し、それを相互に認め合い、お互いに高め合おうとする雰囲気のできる学級集団づくりが必要となります。どんな集団の中で過ごすかによって、その子どもの成長は変わってきます。

例えば



年間を通じて個人面談を柱にしていく(4月は全員と5分だけでも行う)

学級日誌をクラスの交換日記として

学年集会を定期的に行き、学年として目指すところを共有する、確認する

ホームルーム活動、学校行事で役割をもって活動させる etc.

#### 〈島根の教職員の声〉

私は、自分と生徒、また生徒同士をつないでクラスづくりをしていく方法の一つとして学級日誌を使います。日誌をスタートさせるときに、まず自分がクラスへの思いをできるだけ書きます。するとそれを見た次に書く生徒たちが、それに触発されて自分の思いをたくさん書いていくようになります。日が経つにつれ、みんなが見る学級日誌でありながら、自分の悩みや友だちへの励ましなどみんなが遠慮なく書くようになります。なかなかクラスの子と話す時間が取れない中、また、クラス全体での話し合いの時間もない中で、学級日誌を通してみんなの心がつながっていきます。

## ◎担任と副担任、教科担当との連携

教科担任制については中学校から慣れているものの、どの教科についても専門性が増し、一つの教科だけでも複数の先生に出会うこともあります。専門高校においては中学校にはなかった新しい専門教科が増えます。実習も入ってきます。中学校よりもよりたくさんの教職員、大人に出会います。科目数が増え、内容は専門的になっていく中で、それに戸惑う子も多いはずですが、ここでもやはり「たくさんの大人の目」を生かすことが大切になってきます。そしてそれが生きるためには、その「たくさんの大人」が連携する必要があります。担任と副担任、教科担当が打合せを行い、情報交換を続けていくことは簡単ではないかもしれませんが、高め合う集団をつくるためにはこの連携が必要不可欠です。

共通することP18  
校内研修用ワークシートP56 58

### 〈島根の教職員の声〉

担任と教科担当がいっしょに学年部会をするときに言うことは、担任は「主に」〇年〇組を見てください、ということです。つまり、自分のクラス以外に他のクラスもみるということです。すると、子どもたちはどのクラスの先生、どの教科の先生にも質問に行ったり、相談しに行ったりします。子どもたちは先生たちと話がしやすくなり、内容によって先生を選ぶことができます。その学年にかかわる先生もどのクラスもみる、どの子もみるという意識になり、担任は、クラスを見ているのは「自分一人じゃない」と思います。そして、担任をすることが負担ではなくなることによって、多くの教員が「担任がしたい」と思うようにもなります。

## ◎大人にするための最後の3年間～社会に出るために～

高校とは、子どもたちにとって、大人に見てもらう最後の3年間です。大学に行くことも社会に出ることととらえ、3年後に自立できることを目指していきます。どこに進学する、どこに就職するといった自分の進路を決めていくことと同様に、社会へ出て生きていくための力を身につけていくことも大切なことです。

例えば



ディスカッション プレゼンテーション  
活動の企画立案 行事等における役割の遂行等

共通することP12  
学級担任のためのワークシートP63

### ○ あいさつ、そうじ、社会に出て必要な力

〇先生は、授業の始めや終わりに誰よりも大きな声であいさつをする。また、身だしなみや清掃についても「きちんとやろう」とよく呼びかける。これらは、社会に出た時、当たり前ができないといけないこと、また、社会で人から一番認められることだと生徒たちにことあるごとに伝えている。

行事で協力してやっていく場面では、集団で何かをやることの魅力や大切さを語ったりもしている。勉強以外での学校生活の楽しさも味わわせてやりたいと考えている。

また、「島根を背負って立つ」というくらいのプライドをもって、自分を高めていってほしいと伝えている。 島根県教育センター作成実践事例集第二集

「普通高校で過ごす子どもたちと細やかにつながっていく」より

島根県教育センター「学級集団づくり魅力ガイドブック」

## 複式学級の学級集団づくり

### 複式学級って・・・

島根県の現状からみると小学校の約3割の学校が複式学級を有しています。

複式学級は一般的に様々な長所短所を持ち合わせていると言われます。例えば学習において、教え合い、学び合い、自主性が身につけやすい反面、異学年が別の内容を学習する場合はきめ細かい指導ができにくいなどがあります。人間関係で言えば、少人数であることから相互理解しやすい反面、競争意識や、葛藤の経験などがもちにくいとも言えます。

### ◎複式学級は毎年クラス替えがある

複式学級といえば、少人数であり、人間関係が固定されたイメージがありますが、実は毎年クラス替えがあるのです。そして、例えば3・4年生のクラスにおいて、3年生の子どもたちが4年生になったとき同学年のメンバーは変わらないのに、クラスの中で役割、立ち位置が変わります。

また、5・6年のクラスで、教師が6年生に話すことを5年生も聞いています。5年生に言うことを6年生も聞いています。直接言われたこと、間接的に聞いたこと、その立場立場で考えて、学んでいます。5年生が6年生になったとき、1年間6年生を同じクラスの中で見てきたので先を見通して動けます。

### ◎自分たちで成長を実感することができる

例えば、5・6年生の複式学級は、2年前、3・4年生の複式学級として同じメンバーでした。そうすると1年間を空けて同じメンバーになると、「3・4年生のときはけんかしてもなかなかおさまらなかったよなあ」「でも今は自分たちで解決できるよね」というように、自分たちの成長を実感できるのです。成長した自分たちをみんなで感じることは大きな自信につながります。5・6年生の学級開きの時に、みんなで3・4年のときのことを振り返ってみるのもいいかもしれません。

### ◎あこがれて育つ、あこがれられて育つ

複式学級の子どもたちは、隔年で上学年、下学年を繰り返していきます。

#### 〈島根の教職員の声〉

複式だから味わえることがあると思います。例えば、同じクラスの中に、横のつながりと縦のつながりがあります。横のつながり（同学年同士）のつながりはもちろん大切ですが、縦のつながり（異学年同士）のつながりを教師が意識しておくことが大切だなと思います。上の学年を下学年の「あこがれ」にできるようにしていくことが、複式学級をもつ教師の大事な役目だと思っています。下の学年は上の学年にあこがれて成長する。上の学年は下の学年にあこがれられて成長する。どちらも大切だと思います。子どもたちに「あこがれ」の具体を考えさせていきます。

## 教職員のかかわりの力を磨く

学級集団づくりは、教職員の働きかけから始まります。その働きかけの力を意識して磨いていきたいものです。

学年によって子どもたちへの働きかけは変わります。思春期の子どもは「何を言うか」でなく、「誰が言うか」が重要だと言われます。子どもの心に言葉が入る、信頼される「誰」になることが必要です。

また、教職員の言動は、子どもたちの人とかかわる時のモデルともなっています。よいモデルとなりたいものです。

### ◎子どもたちを育てる思いを

教職員の熱心な思いは子どもたちに伝わります。子ども一人一人を大事に思う気持ちや、「この子がかわいい」という思いがあることが全てのかかわりのスタートであり、子どもたちに届くかかわりが生み出される源になります。

### ◎基本は「明るい表情（笑顔）」と「明るく穏やかな声」

人が受けとる印象は、耳と目から入る情報に大きな影響を受けると言われています。自分の表情や声が子どもたちにどのように届いているかを、自分で意識しながら子どもたちにかかわっていけるとよいと思います。何気なくしている腕を組むなどの態度も、相手に与える印象を考えてみましょう。

### ◎まとまった話をする時は、子どもたちの表情を見ながら引きつける工夫を

子どもたちに話す機会の多い私たち教職員ですが、子どもたちの心に届く話ができているでしょうか。時折、自分の話し方をチェックし、よりよいものにしていきましょう。

- ・子どもたちにとって内容が把握できる長さや速さにする
- ・必要な時は視覚も利用する
- ・声に抑揚をつけたり、表情を変えたりする
- ・内容をしぼる

### ◎「ほめる」「叱る」の工夫と、話を聴いて「これから」を考えさせることを

学級は、同じ学年の子どもたちが集まり、優劣がつきやすい集団です。「できる・できない」ではなく、一人一人の子どもの「成長」や学級の「成長」をほめます。そして、友だちや学級の「成長」を見つけた子どもをほめると、よい循環が生まれます。

叱ることも工夫が必要です。子どもたちの心に入る「叱る言葉」を考えたいものです。

子どもの話を聴き、子どもたち自身に気づかせたり「これから」を考えさせたりしましょう。

### ◎教職員がよい集団となるように、お互いがよいかかわりを

同僚の教職員の話を聞く姿や、同僚と話し合う姿を子どもたちは鋭く見ています。人とかかわるモデルとなるよう、お互いがよいかかわりをし合い、教職員自身が成長する集団になりたいものです。

## 人とかかわる力や集団を育てる学習を実施する

今の子どもたちは、遊びを通して人とかかわる体験や家庭や地域で人とかかわる体験が不足しており、自分や人の気持ちを考えて行動することがうまくできない子どもたちが多くいます。その体験の不足を補い、人とのよいかかわりをつくっていく子どもを育てることが、学校教育を成立させていくためにも必要です。

人が集まる学校という場で、それぞれの学年に応じた、人とかかわる力や集団を育てる学習や活動が提唱されています。特別活動の時間などに意図的計画的に取り入れるとよいと思います。

### ◎構成的グループエンカウンター（SGE）

教師のリードのもと、安心して安全な場を確保して「エクササイズ」を行い、自己を発見し他者とふれあって、自己を確立していくことを援助します。学級の実態や学年に応じたエクササイズがあり、子どもたちの実態を見ながら実施していくことが大切です。

#### 〈島根の教職員の声〉

中学生にSGE「いいところ四面鏡」を実施しました。子どもたちは、クラスメイトに自分のよいところを見つけてもらって、照れながらも嬉しそうでした。発達の面から、自他を知ることが大切な中学生の時期にぜひ取り入れたい活動です。

### ◎ソーシャルスキルトレーニング（SST）

人間関係をうまく結ぶための技術を、体験を通して学びます。「してみせて、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ」との言葉のように、人づきあいの技を、教職員がモデルとなりながら子どもたちに身につけさせていきます。その際、楽しい雰囲気を大切にします。

#### ○人間の気持ちや話し方について学ばせる

高校生に、人間の感情についてロングホームルームで指導している。ふとした瞬間に感じるマイナスの気持ちを、人を傷つけずにどう収めるかということとはとても大事なことだと考えている。高校生とはいえ、自分の気持ちが感じられない幼い生徒もいる。自分の気持ちがわかるようになると行動が変わってくるので、このような指導をしていきたいと考えている。

教師が自分自身を見つめて、「自分にもネガティブな気持ちが出てきたときはこんなふうに収めている。ネガティブな気持ちをよい方向に変えていきたいと思っている」と話し、後ろ向き部分をもちながらも前向きにやっていくことの大切さを伝えている。

また、話し方についてもアサーションの考えを取り入れて指導している。

#### ○ルール of 定着を図る～「上手な聴き方」「上手な話し方」の学習をする

「上手な聴き方」「上手な話し方」の学習をしました。今まで指導していなかったわけではないけれど、学級に共通なものとして子どもたちの心の中に落ちていなかったのかもしれない。学級で一緒に体験して実感することで、子どもたちに共通のルールとして感じられていったと思います。体験を伴った学びを行うと子どもたちの意識はずいぶん違ってきます。

実践事例集第二集「クラスの状態を判断し、子どもたちに考えさせていく」「安心感のある学級づくりを求めて」より

島根県教育センター「学級集団づくり魅力ガイドブック」

## V 今後の課題について

### 1 ガイドブックの活用について

活用について次のようなことを考えている。

○配布等で活用しやすい状況をつくる

県内の公立及び私立の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校には、島根県教育庁義務教育課子ども安全支援室主催の生徒指導主任主事研修の場において、ガイドブックの説明をした上で配布し、各学校に持ち帰ってもらう。また、市町村教育委員会、教育事務所にも配布する。そして、島根県教育センターのホームページに公開し、ダウンロードできるようにする。

○活用の仕方を時宜をとらえて紹介する

ガイドブックの中で示した活用の仕方を生かした研修や演習を、島根県教育センターでの研修講座や出前講座で行う。また、子ども安全支援室主催の生徒指導主任主事研修においてガイドブックを使った研修を行う。そして、各教育事務所生徒指導専任主事や、市町村教育委員会の生徒指導担当主事にも学校で使ってもらうよう呼びかけをする。

### 2 活用することによって、改善をしていく

1に活用について述べたが、「学級集団づくり魅力ガイドブック」は読んでもらって、それをもとに向き合い、語り合ってもらって、研修することで出てくる意見をもとに、今後検討を重ね、学級集団作りについての新たな提案をしていきたい。

## VI おわりに

今回、学級集団づくりについてガイドブックを作成したが、もちろんここに示したことが学級集団づくりに必要なポイントの全てではない。第I章でも述べたが、学級集団づくりには「こうすればいい」というマニュアルがなく、それぞれの教職員の経験から生み出されるものによるところが大きい。今回教職員、教育センター指導主事等に聞き取りをしたことも、経験から生み出されたものである。これからも、多くの教職員の経験、実践をできるだけ集め、紹介していきたい。また、新たな取組の開発も視野に入れておきたい。

学校の中で、教職員みんなが自分の実践を語り合い、聞き合い、それぞれの立場でかかわる自分の学級集団づくりを、深めたり広げたりし、必要であれば新たな研修に向かって欲しいと願っている。「学級集団づくり魅力ガイドブック」がその一助になれば幸いである。

このたび、ガイドブックを作成するにあたり、たくさんの教職員、指導主事みなさまに実践の聞き取りをさせていただいた。素敵な方、素敵な言葉、真摯な取組にたくさん出会った。言葉一つに、心動かされることもあった。こんな方たちに子どもたちは日々見守られていると感じるとともに、もっとお話を聞きたくなった。

残念ながらお名前を紹介することはできませんが、聞き取りに協力してくださった皆様、ありがとうございました。

〈共同研究者〉

本研究は、教育相談スタッフ相談セクションの 五明田典子、岩成佳子、成相和広 が共同で行った。

## 【引用文献】

- 『育てるカウンセリング実践シリーズ2小学校編 グループ体験による(タイプ別)学級育成プログラム』  
河村茂雄編著(2005 図書文化)
- 『生徒指導・学級経営上の課題への取組～県内の公立小・中学校の実践に学ぶ』島根県教育センター(平成22年3月)
- 『生徒指導・学級経営上の課題への取組～県内の公立小・中・高等学校の実践に学ぶ・事例集第二集』  
島根県教育センター(平成24年3月)
- 「ようこそ“アベかん”の教育相談・特別支援教育セミナーへ」  
菅野純・阿部俊彦(2013・12月号 2014・1月号 ほんの森出版『月刊教育相談』)
- 『発達障害の子どもとあったかクラスづくりー通常の学級で無理なくできるユニバーサルデザイン』  
高山恵子編 松久真実・米田和子著(2011 明治図書)

## 【参考文献】

- 『生徒指導提要』文部科学省(平成25年3月)
- 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省(平成20年8月)
- 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省(平成20年9月)
- 『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省(平成21年12月)
- 『「集団づくり」論の推移ー人権の視点からの再考ー』  
松下一世著(2012 佐賀大学文化教育学部 教育学・教育心理学講座)
- 『学級集団づくりのゼロ段階』河村茂雄(2010 図書文化)
- 『日本の学級集団と学級経営ー集団の教育力を生かす学校システムの原理と展望ー』河村茂雄著(2009 図書文化)
- 『シリーズ事例に学ぶQ-U式学級集団づくりのエッセンス 集団の発達を促す学級経営 小学校低学年』  
河村茂雄監(2013 図書文化)
- 『シリーズ事例に学ぶQ-U式学級集団づくりのエッセンス 集団の発達を促す学級経営 小学校中学年』  
河村茂雄監(2012 図書文化)
- 『シリーズ事例に学ぶQ-U式学級集団づくりのエッセンス 集団の発達を促す学級経営 小学校高学年』  
河村茂雄監(2012 図書文化)
- 『シリーズ事例に学ぶQ-U式学級集団づくりのエッセンス 集団の発達を促す学級経営 中学校』  
河村茂雄監(2012 図書文化)
- 『シリーズ事例に学ぶQ-U式学級集団づくりのエッセンス 集団の発達を促す学級経営 小学校高等学校』  
河村茂雄監(2013 図書文化)
- 『いま子どもたちに育てたい学級ソーシャルスキル 小学校低学年』  
河村茂雄・品田笑子・藤村一夫編著(2008 図書文化)
- 『いま子どもたちに育てたい学級ソーシャルスキル 小学校中学年』  
河村茂雄・品田笑子・藤村一夫編著(2007 図書文化)
- 『いま子どもたちに育てたい学級ソーシャルスキル 小学校高学年』  
河村茂雄・品田笑子・藤村一夫編著(2012 図書文化)
- 『Q-U式学級づくり 小学校低学年ー脱・小1プロブレム「満足型学級」育成の12か月ー』  
河村茂雄・藤村一夫・浅川早苗編著(2008 図書文化)
- 『Q-U式学級づくり 小学校中学年ーギャングエイジ再生「満足型学級」育成の12か月ー』  
河村茂雄・藤村一夫・浅川早苗編著(2009 図書文化)

- 『Q-U式学級づくり 小学校高学年 ーブレ思春期対策「満足型学級」育成の12か月ー』  
河村茂雄・藤村一夫・浅川早苗編著（2009 図書文化）
- 『Q-U式学級づくり 中学校 ー脱・中1ギャップ「満足型学級」育成の12か月ー』  
河村茂雄・粕谷貴志・鹿島真弓・小野寺正己編著（2008 図書文化）
- 『学級経営に生かすカウンセリングワークブック』河村茂雄著（2006 金子書房）
- 『小学一年生の心理 幼児から児童へ』高木和子編（2000 大日本図書）
- 『小学二年生の心理 なじんだランドセル』高木和子編（2000 大日本図書）
- 『小学三年生の心理 次のステップアップ』落合幸子編（2000 大日本図書）
- 『小学四年生の心理 十歳ー二分のー成人式』落合幸子（2000 大日本図書）
- 『小学五年生の心理 自由なナンバー2』落合良行（2000 大日本図書）
- 『小学六年生の心理 子ども期からの旅立ち』落合良行（2000 大日本図書）
- 『中学一年生の心理 心とからだのめざめ』落合良行（1998 大日本図書）
- 『中学二年生の心理 自分との出会い』落合良行（1998 大日本図書）
- 『中学三年生の心理 自分の人生のはじまり』落合良行（1998 大日本図書）
- 『<学級>の歴史学 自明視された空間を疑う』柳治男著（2005 講談社選書メチエ）
- 「一人ひとりを生かす集団づくり学級づくりの実践」真仁田昭・深谷和子・有村久春・沢崎達夫編  
（2007 『児童心理2007年4月号臨時増刊No. 858』金子書房）
- 『児童心理 11月号』深谷和子編（2012 金子書房）
- 『児童心理 5月号』深谷和子編（2013 金子書房）
- 「小学一年生・二年生のこころと世界」深谷和子編（2012 『児童心理2012年4月号臨時増刊No.948』金子書房）
- 「小学三年生・四年生のこころと世界」深谷和子編（2012 『児童心理2012年8月号臨時増刊No.954』金子書房）
- 「小学五年生・六年生のこころと世界」深谷和子編（2012 『児童心理2012年6月号臨時増刊No.951』金子書房）
- 『指導と評価 2013年5月号～2014年3月号』辰野ち千壽編（2013・2014 図書文化）
- 『初等教育資料 9月号』文部科学省（平成24年）
- 『OSAKA人権教育ABC Part 2ー集団づくり「基礎編」ー』（2008 大阪府教育センター）
- 『通常学級の授業ユニバーサルデザイン』  
日本特別支援教育研究連盟編 佐藤慎二、漆沢恭子責任編集（2010 日本文化科学社）
- 『学級経営の実践ガイド基礎から活用へ』佐藤慎二、太田俊己編（2010 明治図書）
- 「元気と勇気の学び場めぐり 学んでつながる先生たち」赤坂真二著（2013 ほんの森出版『月刊教育相談』2月号）
- 『荒れには必ずルールがあるー間違っただ生徒指導が荒れる学校をつくるー』吉田順著（2013 学事出版株式会社）
- 『子どもの力は学び合っこそ育つー金森学級38年の教え』金森俊朗（2008 角川書店）
- 『時々、“オニの心”が出る子どもにアプローチ 学校がするソーシャルスキルトレーニング』  
曾山和彦著（2011 明治図書）
- 『時々、“オニの心”が出る子どもにアプローチ2 気になる子に伝わる言葉の“番付表”』  
曾山和彦著（2013 明治図書）
- 『子どもの「10歳の壁」とは何か？ 乗り越えるための発達心理学』渡辺弥生著（2013 光文社）
- 『よりよい人間関係を築く 特別活動』杉田洋著（2010 図書文化）
- 『カウンセリングで学級経営12か月』中野目直明・有村久春編著（2003 東洋館）
- 『思春期の子どもの心をつかむ生徒指導 10の心得&場面別対応ガイド50』垣内秀明著（2013 明治図書）